

## 東関東大震災と図書館 被災地の図書館を訪問して（視察報告）

2011年5月21日未明に横浜発、東北自動車道の宮城県白石 IC に早朝到着した。

### 1. 宮城南部

宮城県南部の白石市図書館は到着時間が早朝であったので開館前だった。外観に大きな損傷は見られず、ガラス越しに見える図書館内部には、資料が整然と並んでいた（通常開館）



白石から東に進路をとり、丸森、山元町、亘理に近づく。国道6号線を境に、海側では津波による被災が大きく現地では瓦礫の撤去作業がおこなわれ、山元駅方面は侵入が規制されていた。



国道6号を北上し、岩沼市役所に到着。市役所の入り口付近に掲示板がつくられ、被災写真が掲示されている。地区ごとに被災当時の記録写真や広域の航空写真が貼られ、岩沼地区の被害の大きさが良くわかる。沿線では地震による家屋の倒壊

はあまり見られず、地震の規模の割には被害が少ない。しかし、津波による被害は甚大であり、僅かな土地の高低差が運命を分けている。



市役所に隣接する旧図書館は移転のために閉館されていたが、10分ほど離れたところに新設された新図書館が5月28日開館する。ガラス越しに見えるフロアには段ボールが積み、資料の移転作業も終盤であろうか。建屋は近代的なデザインでフロアも明るく開館が待ち遠しい。



### 2. 仙台近郊

津波で大きな被害を受けた仙台空港は国内線の一階フロアを使用して乗客を受け入れている。ロビーの壁には利用客の残した応援メッセージが貼られている。

空港への道路は優先的に整備されたと見受けるが、道路の両側には津波の被害を受けて廃墟となった住居や店舗、その残骸が散乱したままである。空港モノレールは駅に車両が停車したまま放置され、被災当時のまま時が止まっている。



仙台市立図書館も震災被害を受け、館内の設備が使えない状態であるが、玄関前では青空文庫が開設され資料の貸出・返却サービスを開始しており市民が利用している。



仙台から塩釜、松島、を經由して、海岸近くの国道（国道 45 号線）を石巻に向かう。

海岸に近い、塩釜港付近は津波被害が大きく、大規模店舗など建屋は原型をとどめているものの外壁にも損傷が見られ、天井が剥がれ落ちて配線が見えるものもあり、内部は大きく損傷している。水没した商品は建物の内装や廃材とともに、駐車場に積みあがっている。津波被害を受けた木造民家の多くは崩壊している。

松島付近は沖の島々の影響か津波被害が比較的に少なく、貴重な建造物は倒壊を免れた。

### 3. 石巻・女川・雄勝方面

石巻図書館は被災者受け入れ施設として提供されており閉館中だ。入口近くに「自衛隊のお風呂」が設営され、図書館は入浴利用者の休憩所として

も使われている。



石巻から女川を經由して、海岸近くの国道 398 号線（ブルーライン）を北上した。

ブルーラインは石巻から海沿いに美しい景色が楽しめるドライブコースであるが、点在する漁村は津波により壊滅的な被害を受けており、被災前の面影も残らず痛ましい光景である。

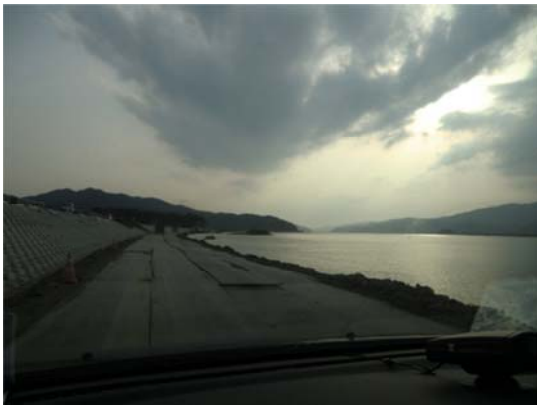


海岸付近に点在する集落を抜けて雄勝地区に向かうが、どの集落でも津波の影響で木造家屋はことごとく崩壊し、がれきが道路の両側に積み上げられている。「搜索終了」と書かれた看板が立てられた上雄勝の町で学校らしき鉄筋コンクリート造りの建物が崩壊を免れて残っていた。近づいてみると、窓はすべて割れて崩れ、津波被害に会ったことがうかがわれる。校舎の時計は止まり、被災の時を告げている。児童、生徒は非難することができたのだろうか、胸が痛む。

この付近はリアス海岸の複雑に入り組んだ地形である。その地形のためか、津波はかなりの距離を入り込んだらしく、海岸から数キロ離れた地域にも、無残な傷が残っている。



北上川も河口付近は防波堤が壊れて、修復工事と道路の復旧が急がれる。道路には鉄板が敷かれて仮復旧状態である。



南三陸志津川図書館は倒壊寸前の無残な状態で建屋に資料が残っていたとしても修復ができる状態とは思えない。

#### 4. 南三陸町

内陸から町に近づくと、津波のラインでくっきりと被害状況が違ってくる。

非難を最後まで呼びかけた防災基地は鉄骨のみがのこり、津波避難用の建造物も想定外の津波に最上階まで浸水した。入院患者を屋上に避難させた志津川公立病院も瓦礫の中に残っている。



高台にあるため津波被害を逃れた志津川高校で